

2026
夏号

発行 城里町社会福祉協議会 ☎ 029-288-7013 FAX 029-288-7021 ホームページ <https://www.shirosato-syakyō.com>
編集 広報ボランティアグループ

第23回 常陸国YOSAKOI祭り

つくしYOSAKOI城里

参上!

詳細は7P「つくしの四季」へ

主な内容

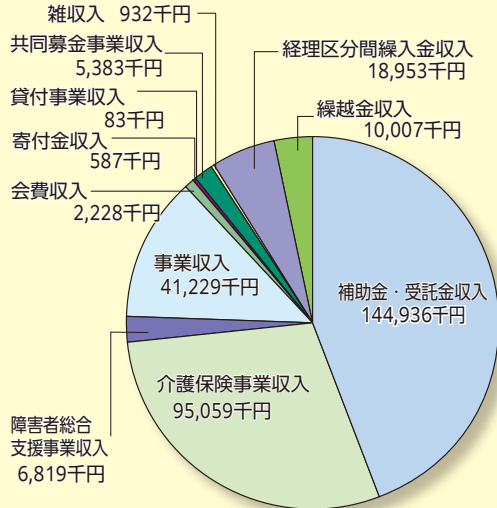
○社会福祉協議会 決算・予算…………… 2.3P
○きらっといきる…………… 4P

○ひきこもり当事者の居場所「このゆびとまれ」…… 5P
○誰もが安心して暮らせる支え合いの地域づくりを… 6P

令和7年度 城里町社会福祉協議会決算

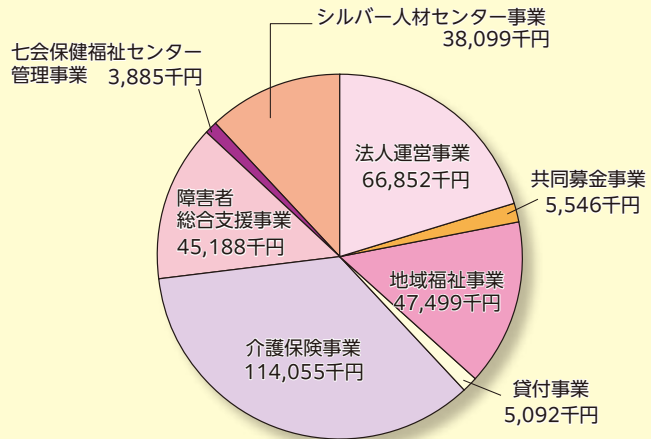
歳入の部

収入 3億2621万6千円



歳出の部

支出 3億2621万6千円



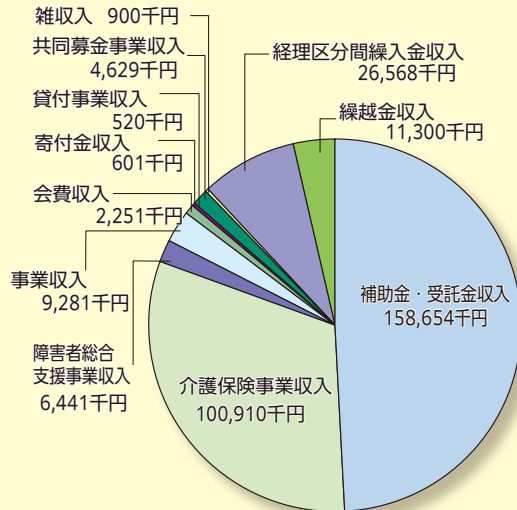
◆令和7年度 事業実績報告

会務の運営	理事会 4回開催 評議員会 3回開催 監事会 1回開催
社協会費	一般会員 3,956世帯 1,961,500円 特別会員 67名 208,000円
共同募金運動	赤い羽根共同募金 3,416,538円 歳末たすけあい募金 1,509,618円
広報紙の発行 広報委員会	「かざぐるま 81号・82号・83号・84号」 各戸配付 広報紙発行に関わる編集会議 累計16回
社会福祉大会	善意銀行寄付者、福祉功労者の表彰、受賞者62名（団体含む）
地域ケア推進事業 キーパーソン会議 クイック調整会議	事例検討、意見交換 計 8回 ＜在宅ケアチーム 15チーム＞ 9回
配食サービス	利用登録者数 242名 延べ7,565名利用
ふれあいサロン事業	自主活動サロン（39か所） 延べ6,890名参加
ふれあい訪問サービス	延べ 567名利用
家族介護用品支給事業	支給者実人数 14名 延べ支給人数 102名
子どもヘルパー派遣事業	交流事業・お手紙作成事業ほか 子どもヘルパー25名 延べ565名参加
生活支援体制整備事業	第2層協議体意見交換会ほか 6回
地域活動支援センター事業	農作業・外注作業など実施 実利用者 14名
日中一時支援事業	延べ 1,128名利用
子育て援助活動支援事業	利用延人数 6名 利用延時間 18時間
在宅福祉サービス事業	利用延人数 626名 利用延時間 1,065.5時間
育児用品助成事業	延べ利用者 66名
入学準備金支給事業	小・中学校入学祝い金支給 3名
訪問理美容サービス事業	延べ利用者 16名
介護用品支給事業	延べ利用者 233名
ボランティア活動事業 福祉体験学習	小学生等対象 福祉体験など7回開催 延べ134名参加
心配ごと相談事業	相談件数 57件
居宅介護支援事業	実人数 247名 延べ 2,292件
訪問介護事業	実人数 30名 延べ 377名
通所介護事業	実人数 65名 延べ 569名
障害者総合支援事業 相談支援事業 居宅介護事業	計画実人数 157名 延べ 373名 訪問実人数 3名 延べ 37名
シルバー人材センター	受注件数 969件 延べ就業人数 4,009人
デマンド交通事業	利用者計 10,386人 1日当たり 42.9人
金婚者への記念品贈呈	金婚該当者 4組
小口貸付事業	1件
身体障害者補助犬飼育管理費補助事業	1名
フードパントリー事業	利用世帯 延べ40世帯
福祉バス運行事業	高ク連利用 2回 他団体利用 1回
自主防災組織活動補助事業	助成団体 8組織
歳末たすけあい見舞金支給事業	独居老人 138世帯 要介護（4・5）世帯 0世帯 障がい者世帯 5世帯 母子父子世帯 8世帯 準要保護世帯 0世帯
交通空白地有償運送事業	利用延人数 148名

令和8年度 城里町社会福祉協議会予算

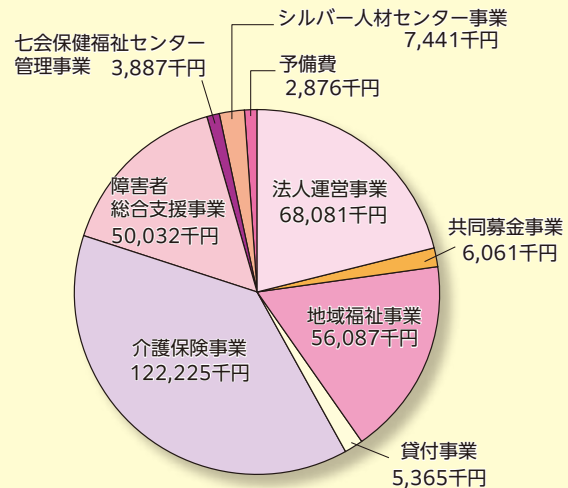
歳入の部

収入 3億2205万5千円



歳出の部

支出 3億2205万5千円



令和8年度 社会福祉法人城里町社会福祉協議会事業計画

1. 善意銀行の運営

- (1) 介護用品助成事業 (要介護3・4・5障がい者等に介護用品の購入助成。要申請)
- (2) 訪問理美容サービス事業の実施 (理美容所との委託契約により実施。要申請)
- (3) 独居老人 (70歳以上) へのふれあい訪問事業を実施 (ボランティアの協力を得て実施。要申請)
- (4) 身体障害者補助犬飼育管理費助成事業 (1件30,000円)
- (5) 自主防災組織への助成 (30,000円×11組織)
- (6) 生活困窮者世帯支援事業 (生活困窮世帯に必要な物品等を給付)

2. 心配ごと相談所の開設運営 (弁護士が対応。年間24回開所。)

3. 福祉推進事業の展開

- (1) 子どもヘルパー派遣事業 (常北・桂・七会地区で実施)
- (2) 子育て援助活動支援事業 (ファミリーサポートセンター事業) (幼児、児童の一時預かり事業)
- (3) シルバー人材センターの運営を実施 (臨時的かつ短期的なもの又はその他の軽易な仕事を受注)
- (4) 配食サービス事業 (ボランティアの協力を得て、在宅で支援の必要な高齢者の方へのお弁当配付)
- (5) 介護予防事業 (ボランティアの協力を得てふれあいサロンを開催。自主サロン (36サロン) 拡充へ支援を実施)
- (6) 地域活動支援センターの受託運営 (通所による障がい者等へ作業訓練及び生活訓練を指導・支援)
- (7) 日中一時支援事業の受託運営 (特別支援学校等下校後の児童生徒等並びに18歳以上の障がい者を対象として生活訓練を指導・支援)
- (8) 小口貸付事業 (短期の少額貸付を実施)
- (9) 団体の育成・支援 (高齢者クラブ連合会、身体障害者福祉協会、心身障害児 (者) 父母の会、母子寡婦福祉会、遺族会)

4. 共同募金助成事業

- (1) 共同募金運動の推進及び歳末たすけあい募金の実施
- (2) 広報紙の発行 (ボランティアの協力を得て発行) (アドレス <https://www.shirosato-syakyo.com>)
- (3) 育児用品助成事業 (赤ちゃんが生まれた家庭に、育児用品の購入助成。要申請)
- (4) 福祉教育推進事業の実施 (町立の小・中・高校へ福祉教育助成金を交付)
- (5) 社会福祉大会の開催 (金婚者への記念品贈呈)
- (6) 火災見舞金の支給 (居宅の火災に対しての見舞金)
- (7) 生活困窮者支援及び準要保護世帯フードサポート事業 (生活困窮者等に対して食料の支援)
- (8) 地域福祉活動助成事業 (地域福祉活動を行う個人、団体等への支援)

5. 生活福祉資金貸付事業 (資金の貸付と相談援助を実施)

6. 介護保険事業・介護予防・日常生活支援総合事業

- (1) 訪問・通所介護事業の実施
- (2) 介護予防・生活支援サービス事業 (介護予防訪問・介護予防通所介護事業実施)

7. 障害者総合支援事業 (居宅介護・相談支援事業の実施)

8. 介護保険居宅介護支援事業 (ケアプランの作成)

9. 地域ケアシステム事業の推進 (在宅ケアチームの組織化、「引きこもり者の居場所づくり」の実施)

10. ボランティア組織の育成強化

- (1) ボランティア活動・普及協力校の活動促進並びにボランティア連絡協議会育成強化・連絡調整

11. 地域福祉の推進

- (1) 住民参加型福祉活動の啓発・啓蒙
 - ① 在宅福祉サービス (家事援助、買物代行、通院介助等)
 - ② 福祉有償移送サービス (愛称: ほろるん) (城里町・近隣市町村等の病院等への送迎)
 - ③ 交通空白地有償運送事業 (愛称: のってく) (65歳以上の運転免許証を持たない方へ特定の病院への送迎)
- (2) 日常生活自立支援事業 (福祉サービスの利用手続きや金銭管理をサポート 要契約)
- (3) ふれあいタクシー事業【デマンド交通システム事業】 (要予約により、相乗りでの運行)
- (4) 日常生活用具貸与事業 (車イスの貸し出し。無料)
- (5) 生活支援体制整備事業 (生活支援コーディネーターの育成及び協議体の設置)

もらっと生きる

石塚地区

高浦

千明さん
のり
倫子さん

地域農業の担い手に



高浦さんご夫妻

高浦千明さん・倫子さんご夫妻取材しました。現在、高浦千明さんご夫妻は専業農家として米、野菜の栽培に取り組んでいます。

高浦さんのご主人は千葉県、奥さまは、茨城県南のご出身です。ご主人の千明さんは会社に勤務するサラリーマンでしたが、コロナ禍で在宅勤務をするようになった時、農業での「米作り」に興味を持つようになりました。現在、専業農家として営む様になったのはこの興味が「きっかけ」でした。

当初、ご夫婦のご両親がともに茨城県西・県南にお住まいだった事もあり、茨城県南地域で農業を営むことを考えましたが、お米主業の農家で生計を立てるには田んぼの面積は少なくとも15ha～20haが必要となります。しかしながら茨城県南でこの面積を確保することは厳しい条件でした。茨城県内全域を対象を広げ、農地探しをする中で常北地区増井地内で米作り農家さんとの出会いがあり、行政による仲介によって4年前、城里町に家族と共に引っ越して来ました。高浦さんは、高校生と小学生の子供さん2人がいる4人家族です。現在の耕作面積は田んぼ2ha、畑0.5haで、まだ目標面積にはほど遠いのですが、何とか耕作面積を増やせるように頑張っています。

また田畑の耕作面積を増やした場合、耕作する機械の大型化も必要となります。目標とする面積を耕作するには、新たに購入する機械や設備も大変な費用が必要となり、その準備は容易ではなく苦勞しています。それでも「地元の先輩の方々から機械を借用させて頂いたり、相談に乗って頂けるので大変助かっています」と話されていました。今後の高浦さんの目標を伺いましたら

“先輩方と共に地域農業の担い手になることです”

と元気ある言葉が返って来ました。ガンバレ高浦さん！！



青空の下での収穫



(写真…桂村史参照)



赤沢江堰遺構（下阿野沢地区）

水は、農民にとって生命線であり、水の制御、確保は何にもまして重要であった。そのために田圃に水を引き入れる用水路や排水路が掘られた。水戸藩の用水路としては、久慈川の辰の口江堰、岩崎江堰、那珂川の小場江堰が3大江堰として知られている。この3大江堰の竣工（1657年）と同時に赤沢江堰も築かれていた。堰は那珂川沿岸の赤沢地内御前山のふもとに設けられ、用水は阿波山村の北端から館山の東側を流れます。北方村の崖下から高久崎、春園村の東北をかすめ、石塚村の風隼神社の下を上泉村に至り、宝幢院下からは木樋で飯富村の台下に接続する、延長12キロ300メートルの堰であった。

しろさと ⑥7 えぜき
赤沢江堰

ひきこもり当事者の居場所「このゆびとまれ」 ＝ 茨城県植物園で開催 ＝



咲き誇るきれいなバラ

天気にも恵まれた5月15日(金)、「ひきこもり当事者の居場所作り」として、那珂市の茨城県植物園に行って来ました。この植物園は昨年の11月27日、リニューアルオープン式典が開催されたばかりで、日本初の「泊まれる植物園」となって再開園されています。

今回は当事者3人の方々と、社協、ボランティアから5人が参加しての開催です。

当日の天気は快晴で風も無く、また植物園のバラの花は最も見頃な状況に開花していて、私達を魅了させてくれました。花の見事さばかりで無く、心地良い香りを漂わ

せてくれる花もあり、参加者の皆さんは顔を近づけて、その香りを楽しんでいました。この後、熱帯植物館に向かう途中、新たなグランピング施設や大きな木々があり、若葉が育った枝の先端に珍しい花を付けていました。今回の野外活動は当事者の方より提案を頂いて開催されたものであり、「楽しいひとときを味わうことが出来ました」との感想を頂くことが出来ました。

この事業の問い合わせ先：社会福祉協議会 電話 029-288-7013



木漏れ日の中での散策

梅雨空に優雅に咲く ～青山花しょうぶ園～

5月末の夏日、6月初めの台風と荒れた天候に、花の咲き具合が心配されましたが、紫、白、黄色、ピンクなどの花しょうぶが、今年も美しく咲きました。下青山の緑豊かな休耕田に、70種類の花が優雅に咲く姿に思わず歓声を上げてしまいます。

開園は6月1日(月)から20日(土)までですが、特に13日(土)、14日(日)には花しょうぶ苗の販売がありました。多くの方が苗場に入り気に入った苗を選んで、掘ってもらっています。「昨年は紫色の花を購入したので、今年は違う色が欲しくて早めに来ました」と語る人もいました。また、道路脇では、地元で採れた野菜などの販売も行われ賑わっていました。

「今朝5時に家を出ました。早朝に咲くところを撮りたかったからです。毎年、楽しみにしています」と日立からバイクで来たかたは、満足そうに語っていました。



お花の周りを散策

4月頃から本格的に始まった花しょうぶ保存会(代表・山崎秀雄さん)の作業は、暑さとの格闘でした。それでも、美しい花を咲かせたいとの会の皆さんの思いが結実したようでした。そして、来年も更に美しい花を目指して6月末には、肥料の散布が始まります。

来年も、きっと皆さんの笑顔があふれますように！



青空と花しょうぶ



ようです。

だった

い心配

いらな

どうやら

と心配を

が上手に

この子は

駄々をこ

るように

私は、娘

駄々をこ

この子は

が上手に

と心配を

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

き缶を受

てありが

ちよつといい話 ⑩

街で出会った

親の背を見て子は育つ

日曜日に娘が孫達を連れて来たので、近くの公園へ遊びに行きました。

公園に着くと、孫達は走り出して、落ちていた空き

缶を拾って娘の所に「ママ

ー落ちてたよ」と笑顔で戻

って来ました。娘は、「え

らいね、きれいにしてくれ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

てありがとね」と言っ

誰もが安心して暮らせる支え合いの地域づくりを

【生活支援体制
整備事業】

<地域のお宝さがし>

健康寿命を延ばし、フレイル予防や介護予防、認知症予防、孤独孤立を防ぐためには、「社会参加をすること」が大切と言われています。「他者との交流」など日常生活の中で自然に行われている「人とのつながり」のことを「地域のお宝」と呼んで、生活支援コーディネーターが協議体や地域の皆さんからお話をお聞きした内容を順次お伝えいたします。

<地域のお宝紹介> (今回は桂地区の協議体「ささえ合い生き活き桂」で発掘したお宝です)

お宝1

あくつサロン

<活動内容>



特別養護老人ホームに併設された地域交流館桂を利用して、体操や交流を行うサロンを実施し「地元の人たちのつながりの場」となっています。

代表の大森令子さんにお話を伺ったところ、参加者がにこやかに楽しくふれあっている姿を見ることが楽しいですとのこと。参加者からは、体操の効果がある、もっと早く開催してほしい、独居の方も来てくれて楽しんでいる、地震を乗り越えてやってきたなどの声も聞かれました。

平成22年から坏公民館で始まり当時は集まりが悪く上坏自治会に回覧したりしましたが、翌年の大震災で坏公民館が倒壊し坏小体育館で行うもエアコンなし。その後地域交流館桂での活動となりました。現在は参加者が高齢になり人数が減ってきているのが課題とのこと。徒歩や自転車、自家用車で参加していた人たちが、免許を返納したり徒歩での参加が難しくなったりしていますが、参加者同士が助け合い運転できる方が近所の方を乗せてきているとのことでした。

毎月第2・第4火曜日 9:30～11:00 開催、参加無料、シルバーリハビリ体操（起立体操、いっぱつ体操、椅子体操、嚙下体操）および情報交換等を行う。シルバーリハビリ体操指導士が取りまとめを行い坏地区の方に参加募集しています。



お宝2

スクエアステップ孫根

<活動内容>



スクエアステップは、マス目状のマット上で決められたステップパターンを踏むことで、身体と脳を同時に鍛える科学的根拠に基づくエクササイズ（初級・中級・上級）です。公民館講座で始まり今では町内14か所で行われており、リーダー研修修了者47名、参加者100名に上ります。

全体代表の石井朋子さんにお話を伺ったところ、孫根地区は開始から6年目、「横のつながり」で参加者がしだいに増えており現在14名が参加しています。みんなで教え合いながらワイワイできるのが楽しいですとのこと。参加者からは、足の筋肉を鍛えながら脳トレもできる、体力がつく、進み具合により達成感がある、歩くときにふらつかなくなった、日常生活で効果がわかるのでうれしい、みんなでやるから面白い、世間話が楽しい、交流ができるなどの声が聞かれました。男性参加者が1人しかいないことが課題とのことでした。

岩船地区公民館、毎月第3金曜日 9:30～11:00 開催、年会費500円。皆様の参加をお待ちしています。



手話を学ぶ 54

「あ」から始まる単語

雨が似合う紫陽花や花菖蒲の見頃も過ぎ、向日葵、蓮、百合など目を惹く美しい花が、暑さに負けないように元気を与えてくれます。

「編む」

両手の人差し指をからませる



「怪しい」

右手の人差し指をあごにあてねじるように動かす



「洗う」

両手のこぶしを作って手のひら側を合わせ、こすり合わせる



「謝る」

親指の腹が向かい合うように両手を並べる



「改めて」

両手の手のひらに向かい合わせる



「争う」

親指を立てた両手を親指の腹を向かい合わせて左右に置き、交互に上下させて上げてゆく



「表す」

右手の人差し指を左手の手のひらにあてる



「現れる」

右手の人差し指を左の手のひらにあて、手前に起こす



「ありがとう」

右手を垂直に立て、小指側で左手の甲をトンとたたく



(すぐに使える手話辞典 6000 より引用)

つくしの四季 ⑨

5月17日(日)に、私たち26名は常陸国YOSAKOI祭りに参加しました。大子の街に鳴子の音が響き渡る中、駅前通りの「流し」やメインステージに立ち、全員で全力の「シャケサンバ」を踊りました。つくしの仲間たちにとって、このよさこい祭りの舞台は、地域の方々や遠方から訪れた多くのお客さんと直接触れ合える、貴重な機会です。普段の生活の中だけではなかなか味わえない、お客さんからの「がんばれ!」「最高だったよ!」という生の声援や、見守ってくださる温かい眼差しは、仲間たち一人ひとりの心に深く、強く響いていました。手拍子で、一緒に身体を揺らして楽しんでくれる観客の皆さんとの間には、言葉の壁を超えた「一体感」が生まれていました。

ステージの上の誰もが最高の笑顔を輝かせ、これま



踊り終えて満面の笑み

で重ねてきた練習の成果を爆発させていました。さらに、今回はボランティアさんにも新しいメンバーが加わり、事前の準備から本番のサポートまでを一緒に盛り上げてくれたことで、これまで以上に賑やかで活気あふれる舞台となりました。大子の街で肌を感じた初夏の風と温かい歓声、そして胸に響いた拍手の心地良さは、私たちの大きな自信につながりました。青空の下で、リズムに合わせて体を動かすこと、汗を流すことは、作業所に通う仲間たちにとって大きな刺激になっています。



「犬がいるから、こちらからどうぞ」と満面の笑みで私達を出迎えてくれた

永山 純子さん 86歳 那珂西

わが町のさわやか元気さん ⑦①

初夏、すばらしい晴天。石崎さんご夫婦取材させ



石崎 貞夫さん 84歳 御前山
文江さん 83歳 御前山

永山純子さん。
永山さんは86歳になりましたが、足腰がしっかりしていても若々しい印象です。「本当は腰が痛くて：運動を止めると余計動かなくなります」と話してくれた永山さんは、ペタンク・グラウンドゴルフ・ユニカール等のスポーツに積極的に取り組んでいます。
また今年3月まで、シルバーハビリ体操指導士として、「どんぐりサロン」

ていただきました。玄関には2歳になる曾孫さんが迎えてくれました。
貞夫さんは、桂村の議員を5期20年、地元消防団を50年歴任され、現在はトラックでの運送業をされています。
文江さんは、シルバーハビリ体操指導士の資格を取得して、あかさわサロンの代表をされ、地元の皆さんのため健康作りの活動を積極的に推進してきました。

を運営してきました。「平成17年からずっとサロンの代表として、準備をしたり記録を付けたり、毎回大変でした。代表を退いた時は、肩の荷が下りたと同時に全てが終わってしまった様でガクツとなってしまいました」と話してくれました。現在は一生徒として参加しているそうです。
長年にわたり多くの人の健康づくりを支えてくれた永山さん、いつまでもお元気で。

た。文江さんも過去にトラックの運転を6年間されていたそうです。
お二人の趣味はカラオケです。常陸大宮市のロゼホールでステージ衣装を着て、美声を披露しています。貞夫さんの好きな食べものは、サバの味噌煮。文江さんは、肉、魚どちらもOKです。肉はちよつとかためが好きだと言っていました。本当に元気なお二人でした。

社協会費のお願い

昨年度も社協会費の納入をいただき、ありがとうございます。
おかげ様で、3,956世帯の加入、1,961,500円。特別会員67名208,000円の納入をいただきました。昨年納入された会費は本会本部運営経費として使用させていただきました。
今年度も現在、各自治会長様にご協力をお願いしまして、ご加入いただいております。
皆様ひとりひとりの思いやりが、町の福祉を支えています。本年もご協力をお願い致します。

お詫びと訂正

85号の「きらつといきる」の記事でご紹介しました、住谷美里香さんですが、名前を誤って表記してしまいました。お詫びして訂正させていただきます。

目次

- 表紙.....1
- 令和7年度城里町社会福祉協議会事業報告・決算.....2
- 令和8年度社会福祉法人城里町社会福祉協議会事業計画・予算.....3
- きらつと生きる.....4
- しろさと⑥.....4
- ひきこもり当事者の居場所「このゆびとまれ」.....5
- 梅雨空に優雅に咲く 青山花しょうぶ園.....5
- ちよつといきる.....6
- 誰もが安心して暮らせる 支え合いの地域づくりを.....6
- 手話を学ぶ⑤.....7
- つくしの四季⑦.....8
- わが町のさわやか元気さん⑦①.....8
- 社協会費のお願い.....8
- お詫びと訂正.....8
- 目次・編集後記.....8

編集後記

何だこの暑さは！いい加減にしてくれ！と文句を言いながらも、一日一日を元気に過ごしている皆さん、愚痴と知りつつガンバっている皆さん、今が辛抱の為所ですよ。これからのいつととき、この暑さと戦って乗り越えれば、やがて朝夕の涼しさを感じられる季節がやってきます。そう自分に言い聞かせて、今朝もまた笑顔で動きだしましょう。